

雲龍長新白族“踏喪歌”と検槽白族“裝飾呼”⁽¹⁾

山 田 直 巳

■ 中華人民共和国雲南省大理州雲龍県長新郷白族“踏喪歌”習俗

2007年8月27日午前、雲南省の省都昆明（関上）から長距離バスで大理州の州都下関へ移動。昼に大理学院の趙敏准教授と合流し、雲龍県行きの長距離バスに乗り換える。雲龍ホテルに一泊。28日の午前、貸切の三菱ジープで長新郷政府へ移動。長新郷政府副郷長の楊梅坤氏と同郷の文化担当趙国忠氏の協力を得て、長新郷政府管轄の大達村、松煉村、新和村の“踏喪歌”の名人に前日より郷政府に来てもらい、待ってもらった。8月28日、長新郷に着くと、すぐ取材に入った。人家の近辺で“踏喪歌”を歌うことは、現地ではタブーになっているので、歌い手は郷政府に近い比江という川の砂洲で演じて見せてくれた。

歌い手（演者）

楊益清：男，白族，74歳，長新郷松煉村白麦地自然村の人，30余年“踏喪歌”の経験有。

張傑興：男，白族，54歳，長新郷大達村の人，30余年“踏喪歌”の経験有。

蘇益成：男，白族，62歳，長新郷松煉村白麦地自然村の人，25年“踏喪歌”の経験有。

陳事中：男，白族，75歳，長新郷大達村の人，30余年“踏喪歌”の経験有。

張永和：男，白族，76歳，長新郷大達村の人，30余年“踏喪歌”の経験有。

張海松：男，白族，54歳，長新郷大達村の人，20余年“踏喪歌”の経験有。

張桂清：男，白族，57 歳，長新郷新和村箐干坪自然村の人，20 余年“踏喪歌”の経験有。

調査内容

I，歌い手の村落概況

A．雲南省大理州雲龍県長新郷大達村は沘江の西側の山の斜面にあり，戸数は延べ 290 戸，人口は 1140 人余り。姓で最も多いのは，張氏で，次は陳，楊，戴の順である。主食は米とトウモロコシ，経済作物は葉タバコ，家畜は豚，牛，馬などを中心とする。大達村出身の著名人といえば張相候氏であるが，この人は清代に科挙試験の進士に合格して有名人となった。

B．雲南省大理州雲龍県長新郷松煉村白麦地自然村は戸数延べ 20 戸，人口は 120 人余り。村は沘江の東側の山の斜面にあり，海拔 1870M。村民には張，王，李，趙，蘇という五つの姓がある。言い伝えによると，最後に白麦地自然村に移って来た人は大理市喜洲鎮からの人だという。主な作物は米，トウモロコシ，豆などである。主要産業は牧畜業である。

C．雲南省大理州雲龍県長新郷和村箐干坪自然村は沘江の東側の支流に近い山の斜面にあり，海拔 2700M。戸数は延べ 118 戸，人口は 789 人。村民は趙，李という二姓よりなる。

II，調査の具体

1．“踏喪歌”の形式

上に紹介した A・B・C 三つの村落の“踏喪歌”はみな団体で歌の掛け合いをし，歌い手は二組に分かれ，各組にそれぞれ「歌師」（歌の頭）がおり，その人が音頭を取り，ほかの人はそれに応える形となる。各組の歌い手は多い場合は 30 数人，少ない場合は 5，6 人である。

2．「歌師」の人数

“踏喪歌”行事を主催する時，「歌師」は少なくとも二人が必要。歌師はそれぞれのチームをリードして音頭を取り，同じチームのほかの歌い手は「歌師」の歌を繰り返し歌って唱和する。上に紹介した三つの村落の「歌師」の人数はそれぞれ違って，大達村には 30 数人，白麦地自然村には 7，8 人，箐干坪自然

村には3, 4人いる。“踏喪歌”は普通は徹夜で歌い続ける。もし二人の「歌師」がずっとリードして歌うと疲れるので、何人かの「歌師」がリレー式で音頭を取る場合もある。

3. “踏喪歌”の構成

“踏喪歌”は最初に「歌師」が誘導して歌う段階とその後の組分けで歌の掛け合いをする段階からなる。

最初に「歌師」が誘導して歌う段階の歌のパターンは決まっており、歌詞も決まった文句である。その歌詞は次の三組に分けられる。

第一組：雲の中を歩いていくかとあなた（死者）に聞きます。⁽²⁾

天上界には星がピカピカ光っている。

第二組：地上を歩いていくかとあなた（死者）に聞きます。

位牌の前の灯火がこうこうと明るい。

第三組：閻魔大王は良心がなくて、

生霊を引き出す名簿を持ち、

人命を奪ってしまった！

死霊は普通地上を歩く道を選び、しかも四つの関を通るべきである。生者は“踏喪歌”の力を生かして、死者が無事に関を通れるように応援する。死者はあの世への入り口を開けてはじめて、あの世に入ることができる。

死霊が通る四つの関は次の通りである。

第一の関：死者の村から洱源县西山羅坪山の「五百本主」までの間。

第二の関：「五百本主」から洱源县鄧川鎮の「地藏王廟」までの間。うち、鄧川には滑りやすい丸木橋があり、なかなか渡れない。死霊は地藏菩薩から借りた草鞋を履いて、はじめて渡れる。

第三の関：鄧川の丸木橋から下関の天生橋までの間。

第四の関：下関の天生橋から賓川の鷄足山までの間。鷄足山の望郷台を通ったら、あの世へ行くことができる。

（その四つの関を通るには決まった歌詞があるそうだが、楊益清氏がその時、歌詞を思い出せなくて残念だった。）

4. “踏喪歌”の内容

死者生前の徳行を褒め称えること。

二十四孝を主にして、子孫の忠、孝、節、義を褒め称えること。

死者の親戚の不幸や親友の不義を批判し、からかうこと。

5. 大達村と白麦地自然村では、時には“踏喪歌”を始める前に「人形振り回し」儀礼をする。その目的は「金童」と「玉女」⁽³⁾に迎えられ、死者に転生させるところにある。

儀式の次第は次のとおりである。

机を用意して、その上に線香を立てて祈願する。「人形振り回し」の担当者は4人いる。

そのうちの2人は紙貼りの「金童」人形を、もう2人は紙貼りの「玉女」人形を持ち、4人は人形を振り回しながら踊る。その時の歌のメロディーは白族の「山花体」⁽⁴⁾で、その歌詞は次の通りである。

東方の童子は花を撒きに来て、⁽⁵⁾
手には青い蓮の花を持っている。
あなたは老人を迎えて行き、
よく孝行をして面倒を見てください。

南方の童子は花を撒きに来て、
手には赤い蓮の花を持っている。
老人は縁起の良い日に行ってしまい、
生者は無事に生きていける。

西方の童子は花を撒きに来て、
手には白い蓮の花を持っている。
霜、雪の積もった冬に老人は帰っていき、
親類は悲しんでいる。

北方の童子は花を撒きに来て、
手には黒い蓮の花を持っている。
80, 90 歳に老人は帰っていき、
その長寿は百歳に当たる。

中央の童子は花を撒きに来て，
手には黄色い蓮の花を持っている。
老人は親類を捨てて旅立ち，
息子も娘も涙を流している。

6. “踏喪歌”は通常，冒頭部分で親孝行の内容を歌うことになっているが，二十四孝の歌詞は長い間を経て出来上がったものである。その二十四孝の人物像の条件は次のとおりである。

第一孝：天帝を感動させた舜

第二孝：親自身が年寄りになった事を悲しまないように，子の自分が七十歳になっても，両親の前では派手な着物を身に付け，子供のように戯れていた老萊子

第三孝：鹿の皮を身にまとして鹿の群の中に紛れ込んで乳を搾って目を患った両親にその鹿の乳を飲ませる鄭子

第四孝：自らは野草を食べながらも両親には良い物を食べさせようと百里もの遠くから米を背負ってきた子路

第五孝：母が指を噛むと，孝行の心で胸が痛む曾参

第六孝：冬の寒い時期に薄っぺらな着物しか与えてくれない継母に孝行をする閔損

第七孝：母・薄太后が病に伏した三年間に皇帝の身でありながら日夜その枕頭に侍り，毒見まで行った漢の文帝

第八孝：熟したものを母に，熟さないものを自分が食べようと桑の実を拾って分けた蔡順

第九孝：母に食べ物を十分に与えようとして自分の子を埋めようとする郭巨

第十孝：父の葬儀を出すお金を得る為に身売りした董永

第十一孝：亡母に模った木像を作って生きている時のように孝行を尽くした丁蘭

第十二孝：遠くまで出向いて清水を汲んで鮮魚を捕って膾を母に差し上げた姜詩

第十三孝：蜜柑をこっそりと懷に隠し入れて母に食べさせる陸績

第十四孝：父のために夏の暑い時には枕や敷物を扇いで涼しくし，冬の寒い時には冷たい布団を自分の身体で暖めておいた黄香

第十五孝：戦乱の中で母を背負って難を逃れた江革

第十六孝：雷の鳴り響いた折には生前に雷を恐れていた母の墓所へ行く王褒

第十七孝：真冬に筍が食べたいと望む病気がちの母のために竹林の中を探し
回った孟宗

第十八孝：厳寒の頃衣服を脱いでその場に伏し、川の氷を融かして魚を捕っ
て継母に食べさせた王祥

第十九孝：荒々しい虎から父を守るために自分の命を虎に与えようとする楊
香

第二十孝：自分の着物を脱いで親に着せて自らは裸になって蚊に刺させた呉
猛

第二十一孝：病気を患っていた父の大便を舐めて症状を知る庚黔婁

第二十二孝：姑・長孫夫人に日頃から乳を飲ませ唐夫人

第二十三孝：母の用いる便器を自ら洗う黄庭堅

第二十四孝：職や妻子を捨てて五十年も生き別れた母を尋ねた朱寿昌

白族の「山花体」で歌う二十四孝（長新郷政府に近い牂江の砂洲で演じ、歌
ってもらった部分）の歌詞は下記のとおりである。

第一孝：天帝を感動させた舜の孝行⁽⁶⁾

親には細かく面倒を見るべきで、
忠孝でないものを学ぶべからず、
養育のご恩を常に覚えるものだ。

弟の象は傲慢で親の面倒を見ず、
虞舜は真心で考行を尽くし
その考行ぶりは天帝を感動させた。

第二考：戯れて両親を楽しませる老萊子

自分が七十歳過ぎても上に元気に生きている親がいて、
派手な着物を身に付け、
両親の前では子供のように戯れていた。

歌ったり踊ったり可愛い子の格好をし、
赤ちゃんのように泣いたり笑ったり戯れていて、
自分が老人になっている様子を両親に見せなく、
それは親自身が年寄りになった事を悲しませないためである。

第三孝：鹿の乳を親に捧げる鄮子
鄮子は常に孝行を尽くす心を持ち、
年老いた両親が目を患って見えず、
卓効のあると云われる鹿の乳を欲しがる。

鄮子はそれを聞いて心が焦り、
鹿の乳の入手方法を工夫し、
それが手に入らないと、
孝行心があるとは言えず。

最後にいいアイディアを思い巡らし、
鹿の皮を身にまとして子鹿の格好をし、
母鹿の中に紛れ込んで乳を搾り、
鹿の乳を親に捧げることができた。

第十孝：父の葬儀を出すお金を得る為に身売りする
董永は身売りして父の葬儀を出すお金を得て、
天上の仙女は彼の親孝行な心に感動し、
地上に降りてきて董永と結婚して夫婦になり、
絹織物を織り上げて董永の身柄を引き取った。

千日の仕事は百日で終わり、
百日の仕事は一気に終わり、
それは親孝行な心が天帝を感動させたわけで、
天も地もその理は同じだ。

第十九孝：虎から父を守った楊香

楊香は年若くても勇ましく、
年が十四歳でありながら虎を押え付け、
虎から父を救い守った。

勇さえあれば年の若さに係わらず、
危難に遭って人の心が見え、
気の大きさは人によって違うが、
ただ孝行の心があれば十分だ。

調査当日、沘江の砂州で演じ、歌ってもらった“踏喪歌”の歌詞は以上のとおりである。川の増水や、瀬音がかなり大きく白（ペー）語がはっきり聞き取れなかったり、と文字化する条件が整わなかった。その結果、二十四孝の歌詞の番号が飛び不連続であったり、途中で番号がなかったりで二十四孝には遥かに少なく及ばなかったりしているが、この点は次回の調査に待ちたい。ビデオの音も不明瞭で、残念ながら映像のみではいくらかクリアでも文字化の助けにはならなかった。

■ 中華人民共和国雲南省大理州雲龍県検槽郷検槽大村白族“裝飾呼”習俗

語り手：楊春文（男）白族，1935 年生まれ。「裝飾呼」儀式を主催する民間芸人。

調査内容

1. 習俗名称の由来：「裝飾呼」は白族語の当て字。雲龍県検槽郷白族の社会では婚礼の晩に親戚や友人が新婚夫婦の部屋に集まり、からかったり騒いだりする風習があるが、それを「裝飾呼」と呼称する。
2. この行事の目的：この儀礼を通して新婚夫婦が四季平安に暮らせ、子孫繁栄となることを祈願する。
3. 「裝飾呼」儀礼の担当者

お爺さん：偽の長い髭を付け、サングラスか大根で作った偽眼鏡をかけ、一方の手には鞭を、もう一方の手にはキセルを持っている。

お婆さん：白族の老夫人の格好で、肩には揺り籠をかけ、その籠には人形の赤ちゃんが置いてあり、チャルメラを吹いて赤ちゃんの泣き声をまねる。また

傘をさしている。

三人の「馬鹿男」：体にシュロ皮の服をびたりとまとい、一人は手に鋤（刃を逆さに付けた）を、一人は手に脱穀用の竿（コネクティング・ロッド）を、一人は手に杵を持っている。

三人の「花嫁」：白族の花嫁の格好をしている。

「村役人」：中国明代官僚の服装、手には昔裁判官が法廷で机をたたくのに用いた木片を持っている。（しかし、この役が出ない儀式もある。）

偽薬の販売者：肩には薬入れの袋をかけ、三枚目の格好をしている。（しかし、この役が出ない儀式もある。）

以上の十人役はみな女装した男性である。

4. 儀式の進行：

A. 告示：昼間に行われる披露宴で、花嫁が串焼きの肉を用意し、「馬鹿男」の格好をした人が花嫁に串焼きの肉を乞い、お客が先を争ってその肉を奪う場面があれば、それはその晩「裝飾呼」儀礼を行う告示となる。その場面がなければ、その晩「裝飾呼」儀式はない。

B. 路上障害物の設置：婚礼を主催する家の人は、「裝飾呼」役が家に入れないように、庭の入り口に門を模った大きな塵取りを設置する。そこで主人と来訪の「裝飾呼」役との問答があり、主人がうまく答えたら入るのを許してくれる。

C. 「お爺さん」は用意してある特別なある物を解釈する。例えば：青い野菜とキノコの組み合わせ、青い野菜とニンニクとの組み合わせ、胡桃一個、豆腐、お米の粒、えんどう豆、赤い唐辛子とお餅との組み合わせ等。

D. 「お爺さん」は神棚を設けて土地神を祭る。

E. 「お爺さん」は白族メロディーで結婚式を主催する家のために、「干支の歌」を歌う。

F. 「お爺さん」は鶏の頭蓋骨の占いをする。

G. 「村役人」は女性を誘拐する偽薬の販売者を裁判する。（しかし、この場面がない儀式もある。）

5. 儀式の具体：

「裝飾呼」は冒頭で述べたように、雲南省雲龍県檢槽郷白族の社会で、婚礼の晩に親族や友人が新婚夫婦の部屋に集まり、からかったり騒いだりする風習で、その儀式の目的は新婚夫婦の無事健康、早く子が誕生するよう祈願するこ

とにある。

昼間の披露宴で花嫁が串焼きの肉を用意し、「馬鹿男」役がそれを乞い食べる場面があれば、主催者がその晩「装飾呼」儀礼を行う告示となる。もしその場面がなければ、主催者はその晩「装飾呼」儀礼を行わない。

花嫁が「馬鹿男」に串焼きの肉をあげると、みんなはすぐにその肉を奪いに押し寄せる。肉はあっという間に客に奪われてしまう。言い伝えによると、自分の家に子供がいれば、その肉を持って帰って子供に食べさせたら、その子供がすくすくと元気に成長し、めったに病気にかからないそうだ。

「装飾呼」儀礼の担当者：

お爺さん：(冒頭1,の「装飾呼」儀礼の担当者を参照)

お婆さん：(冒頭1,の「装飾呼」儀礼の担当者を参照)

三人の「馬鹿男」：(冒頭1,の「装飾呼」儀礼の担当者を参照)手に持った鋤は儀式で土地神を祭る時に土を掘り起こす所作をするがその場で用いる。また「鋤で処女地を耕す」ことは新婚夫婦の交合に喩えられる。一人は手に脱穀用の竿(コネクティング・ロッド)をもち、その竿が二つからなっていることから夫婦が対になっているとの意味がある。一人は手に杵を持っている。その杵は男根のシンボルであり、儀式の途中で杵持ちの「馬鹿男」がその杵で部屋にいる女性客をなぶる、といったいたずらをもする。

三人の「花嫁」：白族の花嫁の格好をしていて、特別な道具は持っていない。儀式でははにかんで、三人の「馬鹿男」にからかわれる役を務める。

「村役人」：(冒頭1,の「装飾呼」儀礼の担当者を参照)

偽葉の販売者：(冒頭1,の「装飾呼」儀礼の担当者を参照)

以上の役は、鑑賞客に自分の身柄が知れないように秘密の場所で化粧する。そうすることで儀式に登場した人物はだれか、という興味や神秘性、またコミカルな印象が増す。

以上の十人役はみな女装した男性である。

「装飾呼」儀礼は夜の披露宴がお開きになった後、主人が客をもてなす庭で行われる。銅鑼や太鼓の敲击音と爆竹を鳴らす音を合図に、「装飾呼」儀礼の役は婚礼の主催者の家の入り口の外側に集合。お爺さんを先頭に、次にお婆さん、「馬鹿男」、「花嫁」の順番で列をつくって歩いてくる。主人は自家の庭の外側で「装飾呼」役に大きな塵取りを門とする路上障害物を置き、その門を境に主人側と来訪の「装飾呼」役との問答式やり取りが演じられる。

主人側の人：あなたたちはどこから来ましたか？

「裝飾呼」役：わたしたちは××から来たのです。

主人側の人：あなたたちは何をしに来ましたか？

「裝飾呼」役：お宅では結婚式を行っていると聞きました。興に乗って遊び
事の仲間入りをさせて下さい。また、一泊宿らせてください。

主人側の人：泊まってもいいですが、何かめでたいことを言って聞かせてく
ださい。

お爺さん役：(次のようなめでたいことを語る。)

雉鳩⁽⁷⁾がかんかんと鳴き、門を開けに来て、⁽⁸⁾

川の洲にあり我が入る。

心の優しい美人が寝てしまい、

若者が求めるのはそんな人である。

黒山の竹林の間に一枚の田があり、

十八年間ほうって荒れてしまった。

今夜それを開拓し、

万年までも栽培することができる。

このようなやりとりが終わってから主人側はやっと塵取りでできた門を開ける。すると、三人の「馬鹿男」はすぐに庭に飛び込み、鑑賞客を庭の周囲に行かせ、真ん中を空けて儀式をする空間を作る。それから庭の真ん中に土地神を祭祀する机を置き、その机の上に土公、土母、土地神という泥造りの神像を三柱安置する。更に、半煮した鶏一匹、肉、線香と蠟燭、茶、酒を神饌とする。

以上、土地神などへの供え物のほかに、「裝飾呼」儀礼には、特別な意味を帯びた物が用意してある。お爺さん役の人はそれらの組み合わせに対して特別な解釈をする。その組み合わせは以下の通り。

青い野菜とキノコの組み合わせ、

青い野菜とニンニクとの組み合わせ、

胡桃一個、豆腐、お米の粒、えんどう豆、赤い唐辛子とお餅との組み合わせ。

人々はこれらだれでもよく知っている物に対して「これは何ですか」とわざと聞くが、お爺さんは一つ一つ特別な意味を解釈する。

えんどう豆：豆は真ん丸くて、後代が状元⁽⁹⁾になる。

お米の粒：一粒の米は白くて、子孫後代は先生になる。

青い野菜とニンニク：娶った花嫁をゆっくり教える⁽¹⁰⁾

胡桃：誰かが胡桃を指差して「これをどうする」と聞くと、三人の「馬鹿男」は先を争って「私がやる、私がやる」と答える。⁽¹¹⁾

青い野菜とキノコ：花婿に嫁いだ花嫁をゆっくりと働かせて新しい家に慣れるようにさせる。⁽¹²⁾

豆腐：花嫁の腹を早く大きくさせ、妊娠させること。⁽¹³⁾

赤い唐辛子とお餅：赤い唐辛子は男根のシンボルで、それがお餅と親しく接触するとは、つまり男女交合の動作と女性の陰部を意味する。⁽¹⁴⁾

以上の儀式が終わると、土地神を祭る儀式が始まる。婚礼を行う家のどの部屋でも土地神の祭祀儀式が行われるべきである。部屋の東西南北中央の五つの所に前もって小さい土の塊が用意してある。その上には線香、紙作りの三角旗が挿してある。鋤持ちの「馬鹿男」はお爺さんの祈祷にしたがって、それぞれの土塊を起こす。

お爺さんは次のように語る。

喜神よ、東方の土から出てください！⁽¹⁵⁾

喜神よ、西方の土から出てください！

喜神よ、南方の土から出てください！

喜神よ、北方の土から出てください！

喜神よ、中央の土から出てください！

「土の掘り起こし」儀礼が終わると、主人がお爺さんに白族の民謡を歌ってもらう。すると、お爺さんは白族の「干支歌」を歌いながら思うままに歩く。ほかの「装飾呼」メンバーは自由にお爺さんの後ろについて歩きながら、ユーモラスな動作をして観賞客に見せる。それでお爺さんの歌の雰囲気盛り上げる。「馬鹿男」は杵で周りの女性の股下や尻辺りに搗くような動作をする。それは男女交合を意味する。お婆さんはチャルメラで赤ちゃんの泣き声を吹き出して、揺り籠から人形の赤ちゃんを抱いて哺乳する。あるいはその赤ちゃんを周りの女性の観賞客にあげてあやしてもらう。

お爺さんの歌う白族の「干支歌」は次のとおり：

大地には土鼠がいて、⁽¹⁶⁾
昼間は身を隠し夜は出かける。
我が家の花柄猫を出かけさせて、
鼠の腰を噛み切る。

大地には黄牛がいて、
朝食後牛飼いに行く。
男は犁の棚を担ぎ女は鞭を振るい、
牛の背を軽く殴る。

大地には恐れる虎がいて、
高い山でも大きい竹林でも勝手に遊ぶ。
山火事が木や竹を焼き尽くし、
猛虎は病気にかかった猫のようになる。

大地には野兔がいて、
坂を下りる時手が短いので歩きにくい。
我が家の三男は罌を造り、
兔は生きていけない。

大地には黒い龍がいて、
沼には尻尾を湖には頭を隠す。
七、八月には龍が集まり、
山が崩れ、洪水になる。

大地には蛇が巻いている。
冬には冬眠し、夏には出没する。
白い綿羊を一群れ飼い、
蛇が綿羊の腰帯になる。

大地には馬がいて、
良い食料と美味しい草で飼う。

市の日には花柄の馬に乗り、
のんびりとして気持ちがいい。

大地には羊が一群れいて、
毎年毛を三回切る。
我が家の次郎はマントを作れるので、
家族全員に着させる。

大地には猿がいて、
大木にも小木にも自由に登る。
豚を猿のいる竹林にまで放牧し、
取った虱が野猿に変わった。

大地には鶏が一群れいて、
「ゲゲ」と鳴いて卵を産む。
一ヶ月に三十日があり、
卵を九十個産んだ。

大地には番犬がいて、
よく飼って家の留守番にする。
昨夜うちの牛が盗まれて、
それは犬めの責任だ。

大地には豚がいて、
あなたを油桶ほど肥えるまで食べさせる。
十一月に年越し用の豚を殺し、
豚が驚かされて鳴き乱れる。

歌い終わると、お爺さんは三人の「馬鹿男」に合図して、部屋に置いた三柱の土地神、土塊、線香、紙旗を鋤で一箇所に集めて、喜神の出る方向へ送り出してもらう。当日喜神の出る方向は村の陰陽師に八卦で占ってもらって決まっていたのである。土送りの時、お爺さんはまた白族の歌謡を一曲歌う。

手を振って主人の家族と別れ、⁽¹⁷⁾
後ろについて来ないでください。
私たちは新しい衣類をもらい、
また線香を立ててもらった。
これからご家族は万事無事に、
仲良く豊かに暮らせる。

土送りの儀礼が終わると、「裝飾呼」儀礼の役は化粧を洗い落とし、主人の家では彼らにご馳走する。そのうち、神饌の鶏を煮て、お爺さんに鶏の頭蓋骨の占いをしてもらう。お爺さんは鶏の頭蓋骨の様子を見て、土地神を祭った後その願い事が叶うかどうかを判断する（鶏の頭蓋骨の占いができるシャーマンの解釈によると、鶏の頭蓋骨の特別な所から願い事が叶うかどうか見分けられるそうだ）。

今回インタビューした楊春文氏によると、彼が主催した「裝飾呼」儀礼における鶏の頭蓋骨の占いはすべてめでたい結果を示したそうだ。儀式が行われると、みな良い結果に恵まれると思っているし、また約束される。

儀式が全部終わると、彼はシュロの皮造りの服装、偽髭などの道具を管理人に渡して保管してもらう。しかし、臨時に造った道具は土送りの時に野外で焼かれてしまう。

儀式を行う時の禁忌：結婚式の時に花嫁がすでに妊娠していたら、「裝飾呼」儀礼を行ってはいけない。妻が妊娠していたり、あるいは病気にかかっている男性は「裝飾呼」儀礼の役を努めてはいけない。

「裝飾呼」儀礼は雲龍県検槽郷の多くの白族村だけでなく、同県果朗郷天登などの白族村でも行われている。最近、検槽郷の村では「裝飾呼」儀礼の担い手が固定してくるようになり、楊春文氏はそのうちの一人である。また普通、「裝飾呼」儀礼のメンバーは、毎回一人当たりで30～50元のお礼がもらえる。

時には「裝飾呼」儀礼で、婦人を誘拐する偽薬の販売者を裁判する場面がある。その挿話に登場する役は二人いる。一人は中国明代官僚の服装をした「村役人」で、もう一人は三枚目の格好に扮した偽薬の販売者である。偽薬の販売者は村へ人騙しに行き、未婚の女性を誘拐する。事情がばれた後、彼は「村役人」の所に護送されて裁判を受ける。訊問中、偽薬の販売者は誘拐した女性とトラブルが起こり、二人はともにその女性が自分の許婚だと言う。最後に、

「村役人」は両方に証拠になる物を提示させることになるが、偽薬の販売者は信じられる証拠が出せないでいたところ、「馬鹿男」は自分の許婚の左手に痣があると言う。その痣をチェックすると確かにあった。そこで、「村役人」は判決を下し、偽薬の販売者を叱り、罰を与えた。その後、村人に外来の詐欺師などを絶対信じないで、自分の娘をよく見守ってくださいと戒める。

ただし、この挿話はどの儀式にも行われているとは言えない。

注

(1) 本調査は、2007年8月27日～8月30日まで下記のメンバーで実施された。

日本・成城大学 山田直巳 教授

日本・共立女子短期大学 岡部隆志 教授

中国・雲南省・大理学院民族文化研究所副所長 趙 敏 准教授（ペー語・中国語通訳にも活躍して頂いた。）

中国・浙江省・寧波大学外国語学院 張 正軍 教授

(2) 原中国語は下記である。

第一組：問您(指死者)要从云中走？

天上星光亮闪闪。

第二組：問您(指死者)还是地上走？

灵前灯火亮闪闪。

第三組：阎王老爷没良心，

勾魂名册你掌握，

人命断在你手中！

(3) 一説にはもと玉皇大帝の使用人。別説には観音や文殊菩薩の説法を聞いて悟りを開いた善財童子と龍女だったという。

(4) 白族の『山花碑』に刻んである『詞記山花 詠蒼洱境』という詩歌に由来。七七七五あるいは三七七五音節の歌である。

(5) 原中国語は下記である。

东方童子来撒花，

手持一朵青莲花。

你把老人接了去，

好好孝养他(她)。

南方童子来撒花，

手持一朵赤莲花。

老人走在好时日，

让生者平安。

西方童子来撒花，

手执一朵白莲花。

雲龍長新白族“踏喪歌”と檢槽白族“裝飾呼”

冬满霜雪老人归，
亲人好心伤。

北方童子来撒花，
手持一朵黑莲花。
八九十岁老人归，
寿抵一百年。

中央童子来撒花，
手持一朵黄莲花。
老人抛别亲人去，
儿女泪连连。

(6) 原中国語は下記である。

第一孝，孝感动天心：
对待父母要细心，
非忠非孝不能跟，
时时念养恩。

象傲不侍父与母，
虞舜尽诚行孝心。
孝感动天心。

第二孝，戏彩娱亲：
年过七十有双亲，
花衣花裤穿在身，
装作小娃娃。

唱歌跳舞扮傻男孩，
嘻闹哭笑如婴孩，
双亲面前老变少，
以娱二老心。

第三孝，鹿乳奉亲：
善子至孝有恒心，
父母双双眼失明，
要想喝鹿乳。

善子听后心中急，
思量怎样得鹿乳，
鹿乳若要拿不到，
不算有孝心。

果然办法想起来，
身披鹿皮扮小鹿，
引来母鹿得鹿乳，
鹿乳奉双亲。

社会イノベーション研究

第十孝，卖身葬父：
董永卖身殡葬父，
孝心感动天女心，
下得凡间共甘若，
很快赎了身。

千日工程变百日，
百日工程一时清，
全是孝心感上苍，
天地亦同理。

第十九孝，扼虎救父：
年少英勇杨香子，
年方十四能伏虎，
虎口救父身。

有勇不在年岁小，
唯有急难见人心，
胆大胆小因人异，
只因有孝心。

- (7) 雉鳩はもとは狂猛な鳥で，それが魚を捕るのは男性が女性に愛を求めることに喩え関
雉鳩とは雄雌の雉鳩がともに鳴くことで夫婦の仲良いことを喩えている。なお『詩経』
(周南) がふまえられている。

- (8) 中国語は下記である。

关关雉鸠开门来，
在河之洲我进来。
窈窕淑女睡下去，
好毯君子翻过来。

黑山老箐一邱田，
一荒荒了十八年。
今天晚上要开辟，
种得万万年。

- (9) 幹部登録の科挙試験のトップの人。

- (10) 野菜は「ゆっくり」の発音，ニンニクは「教える」の発音に近い。

- (11) 白族語では「胡桃」と「私がやる」とは発音が似ているので，ここでは今夜花嫁がだれ
とセックスをするかという，花婿がやるという意味を表している。

- (12) キノコは「動かせる」，「青い野草」は「ゆっくり」との発音に近い。

- (13) 白族語では「豆腐」は「大腹」の発音に近い。

- (14) 白族の日常のからかう言葉では犬の男根を「犬唐辛子」と言う。また，白族語では「お
餅」は「腿の根」の発音に近い。

- (15) 原中国語は下記である。

雲龍長新白族“踏喪歌”と檢槽白族“裝飾呼”

“老头”诵念：东方土气出喜神！西方土气出喜神！南方土气出喜神！北方土气出喜神！
中央土气出喜神！

(16) 原中国語は下記である。

大地之上有土鼠，
白天紧躲夜出动。
放出我家大花猫，
咬断鼠的腰。

大地之上有黄牛，
吃过早餐去放牛。
男扛犁架女挥鞭，
轻打牛脊背。

大地之上有猛虎，
高山大箐任它游。
大火烧尽山箐树，
猛虎变病猫。

大地之上有野兔，
下坡手短难行路。
我家老三设陷阱，
兔子无生路。

大地之上有黑龙，
沼泽隐尾湖藏头。
七八月间龙聚首，
地崩犯山洪。

大地之上有蛇盘，
冬季僵眠夏出没。
养上一群白绵羊，
蛇变羊腰带。

大地之上有马匹，
好粮好草来喂养。
超集之日骑花马，
悠闲好处在。

大地之上有群羊，
每年换剪三茬毛。
我家老二能制毡，
全家都沾光。

大地之上有猴子，
大树小树任攀爬。
放猪放到猴子箐，
捉虱变野猴。

社会イノベーション研究

大地之上有鸡群，
叫着“咯嗒”下个蛋。
一月共计三十天，
下了九十蛋。

大地之上有家狗，
精心喂养好看家。
昨夜家中牛被盗，
都怪瞎眼狗。

大地之上有头猪，
将你喂肥像油桶。
十一月份杀年猪，
吓得你乱嚎。

(17) 原中国語は下記である。

挥手作别主人家，
不要跟朝后边来。
送给我们新衣衫，
又给我们上高香。
从此以后光景好，
和美过生活。